



昨年の11月に DEQX を導入してからかなり時間が経ってしまいましたが、やっとシステムがまとまりつつありますでご近況を報告します。

20代の頃、鮮度の高いホーンドライバーにあこがれ、真空管アンプによる3way マルチに挑戦しました。数年間取り組んだのですが、位相の問題や音像を絞り切れなかったり、ノイズに悩まされたりで、ついに断念してしまいました。

その後は様々な市販の機器やスピーカーを何台、否、何十台と入れ替えてきました。機器を入れ換えると調整を繰り返し、しばらくは満足できる状態になるのですが、ネットワークが入ったシステムの鮮度が落ちた音・押さえつけられた音にはどうしても満足できませんでした。

とは言っても、マルチに戻る勇気はなく、次第に高価な機器に移行していきました。そして昨年の秋、友人から DEQX のことを聞き、これなら間違いなくマルチアンプで行けると直感し、音を聞くこともなく実物を見ることもなく発注しました。

それから再度マルチアンプシステムに向けて、アンプ・スピーカーを処分しました。このときのアンプはゴールドムンドのミメイシス27・28、スピーカーはディナウディオのコンフィデンスC4でした。このシステムが奏でる音楽は、今まで取り組んだ多くのシステムの中では比較的まとまり、大きな不満は感じられないところまで到達していましたが・・・

まずはスピーカー探しです。オール・ホーンシステムへの夢は今でもあるのですが、いかんせん場所が狭すぎます。良いものはないかと捜しているとき、ソニースタジオで使用されていた SONY SEM-1W を見つけ購入しました。（「2007年11月16日」の User's Report に掲載されているものです。）

このスピーカーは、ボックスとホーンはソニー製ですが、ユニットは TAD TL-1601b と TD-4001 です。かつてエクスクルーシブ 2401 等を使用していたのでユニットについては馴染みがあり、再度使いたいと思っていたユニットでした。

組み合わせるアンプには悩みました。真空管アンプは実際の使用時にノイズで随分悩んだものですからもう止めようかと思ったのですが、真空管の音の暖かみが忘れられず、再度真空管アンプを取り寄せしまいました。

DEQX をプリアンプ兼チャンネルバイダーとして使い、パワーアンプを真空管としたこのシステムは、20 年前に悪戦苦闘して挫折したホーンスピーカーによるマルチアンプシステムをいとも簡単に超えてしました。

1 時間程度の調整で、出てくる音は鮮度が高く、部屋の弱点を補い、歪みや癖の感じられない自然な音色で、全く不満は感じられませんでした。

しばらくは良かったのですが、ユニットの能率が 110db もありますからアンプの出力としては 5w 程度で十分なのですが、アンプの出力が高すぎたのか夜間など環境が静かになるとやはりアンプノイズが気になり出しました。

いったん気になるともう音楽に心の底から浸ることが出来ません。ついにアンプの入れ替えとなってしまいました。

以前マスターズで作って頂いたアンプに良い印象があり、HP を見ると MOS-FET を使ってノイズを抑えた 25w 出力のアンプを出しているではありませんか。

それをベースに出力を 10w に下げてノイズをより低くしたアンプもあるとのことなので、12 月に発注し 2 月初旬には届きました。

ノイズは皆無で音色も良く、大変満足できるレベルです。聴きに来た友人も音の全くない状況から音が元気に飛び出す印象は怖いほどですね、と感想を述べていました。

現在、2way のメインスピーカーにホーンツイーターを追加しています。更に基音部分を充実させるためミッドバスを加える予定で、TAD のコーンユニットにするか、ホーンドライバにするか検討しているところです。

かつてのマルチアンプ時代に使用していましたがチャンネルバイダーですと周波数を変えるためには新たに基板を購入しなければなりませんでした。

これが、DEQX では自由に変更可能ですからカットアンドトライが思い通りにできますし、調整も僅かな時間で可能（私はまだまだ使いこなせていませんが、友人が簡単に操作してくれています）なので、システムの追い込みが簡単にできます。

ほんとに DEQX があればこそこの私のシステムです。近々 3way+ハイパスフィルターによるシステムが完成すると思います。完成しましたら、再度報告させていただきます。

以上。

